

科目名	単位数	学年	学期	必修・選択	対象	担当者
美術 I	2	1	全	必修	全日制普通科	大城 あかね 印

使用教科書・副教材	「美術1」 38-光村・美 I-701 光村図書					
指導目標	美術の基礎を学び、様々な観点から豊かな創造活動を展開させる。 美を感じ取る感性を高め、表現する楽しさや完成の喜びを味わう。					
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	形や色彩の性質や効果、造形的な特徴などを基に全体のイメージで捉えることを理解している。意図に応じて、材料や用具の特性を生かして創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。	感じ取ったことや自分の思いなどから主題を生成し、形や色、構図、材料や用具の特性について考え、見やすさや美しさの調和、統一感などを総合的に捉え創造的な表現の構想を練っている。	主題を生み出し、伝達する内容や目的などを総合的に考え構想を練り、意図に応じて創造的に工夫し見通し持って表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。			

学期	月	週数	学習内容	学習のねらい	時間	
1	4	1	絵画 身近なものを描く 「折った紙」	鉛筆を使い分けて明暗のグラデーションを表現する。モチーフをよく観察して、鉛筆でデッサンする。デッサンの基本を学び、明暗や質感、量感などを表現する。	4	
		2	絵画・デザイン ・色の特徴を知ろう 「色相環と混色」	色の機能性や効果を理解し、表現や鑑賞に生かせるようにする。混色の技術を習得しながら色相環を作成する。混色してオリジナルの色を作成する。	4	
	5	3	彫刻・デザイン ・粘土による立体表現 「キャラクターのデザイン」	キャラクターの特徴や要素を理解し、設定に合わせてデザインする。材料の特性を生かして創造する楽しさを味わう。情報伝達の構想や造形するデザイン力を養う。	8	
		4				
	6	5	デザイン ・メッセージを広く伝える 「情報伝達の表現を学ぶ」	デザインの機能や効果、表現形式の特性などを学び、ポスターで情報を伝達する力を養う。伝えたい内容にふさわしい表現方法を考え、多くの人に伝わるようにデザインを工夫する。	6	
		6				
	7	7	絵画 ・物語の世界を表現する 「読書感想画を描く」	物語の説明にとどまるのではなく、読後の感想や心象を捉え表現する。物語の世界から自分自身の表現の世界へと昇華させ、自分自身の心象表現を深く追求した絵画的な表現を工夫する。	6	
		8				
	2	9	9	共通のテーマから個々のテーマを掘り下げて、カードアートを表現する。伝えたい内容が効果的に伝わるように工夫して制作する。	6	
			10			
		10	11	工芸 ・陶芸 食器の制作	粘土の特性を知り、手びねりの基本技法(ひもづくり、玉づくり、板づくり)を体得する。食器の用と美について学び、使い勝手がよく美しい形になるようデザインを考案して制作する。表現したいイメージを形にできるよう工夫する。素焼き、本焼きを通して、窯詰めの仕方や釉薬のかけ方などを理解する。	12
12						
11		13	絵画・デザイン ・絵本を作る 「コラージュ絵本」	自由に色を塗り色紙を制作する。制作した色紙の色から受けるインスピレーションから物語を考える。物語は起承転結を考えながら、絵本独自の場面展開を見据えて考案する。心の深層にある意識を呼び起こす美術の表現に関心を持ち、形を見いだしたり発想したりしてテーマを生成し制作する。テーマに沿ってコラージュし、絵本の構図や展開を捉えながら工夫して表現する。	12	
		14				
12		15	映像メディア表現 ・アニメーションを作る 「こんなことできません」	コマ撮りアニメーションの技法を知り、撮影の仕方を工夫して作品を制作する。現実には不可能なことを映像の世界で可能にできる面白さを動画で表現する。絵コンテ作成、セット作り、撮影、編集の一連の流れをグループワークで協力して取り組む。	10	
		16				
3		1	17	まとめ	1年を振り返り、作品管理等のまとめをおこなう。	2
			18			

授業内容及び評価、その他

①教科書や図録、資料集などの視聴覚教材やワークシート等を活用し、創造的な表現を目指した作品制作が中心となる造形活動を行います。
 ②授業において調べ学習や教科書のICTコンテンツの利用、アプリの使用など、各自の端末を活用した授業を行います。
 ③コンクール等に出品することを旨とした課題も盛り込み、実績作り等を行います。
 ④知識・技能(40%)、思考・判断・表現(30%)、主体的に学習に取り組む態度(30%)を基準に評価を行います。

科目名	単位数	学年	学期	必修・選択	対象	担当者
美術Ⅱ	2	2	全	必修	全日制普通科 文系クラス	大城 あかね 印

使用教科書・副教材	「美術2」 38-光村・美Ⅱ-701 光村図書					
指導目標	美術の創造的な諸活動を通して、自然や自己、社会などを深く見つめ表現を迫及する喜びを味わわせる。基礎的技能をしっかりと身に付け、多様な表現方法に創意工夫し、創造する能力を養う。					
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	形や色彩の性質や効果、造形的な特徴などを基に全体のイメージで捉えることを理解している。意図に応じて、材料や用具の特性を生かして創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。		感じ取ったことや自分の思いなどから主題を生成し、形や色、構図、材料や用具の特性について考え、見やすさや美しさの調和、統一感などを総合的に捉え創造的な表現の構想を練っている。		主題を生み出し、伝達する内容や目的などを総合的に考え構想を練り、意図に応じて創造的に工夫し見通し持って表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。	

学期	月	週数	学習内容	学習のねらい	時間
1	4	1	絵画 ・心の中の風景 「ゼンタングルの表現」	ゼンタングルや日本の伝統模様など様々な文様を理解し、模様の連続やパターンの美しさを感じ取る。 オリジナルの模様を考案して、多様な模様を連続させて自己の世界観を模索しながら心の中で思い描いた風景を自由に表現する。パターンデザインの造形的な特徴や面白さ、美しさなどを捉えて表現する。	10
		2			
		3			
	5	4			
		5			
		6			
	6	7	絵画・デザイン ・素材と向き合う 「サンドアート(砂絵)で時計デザイン」	サンドアート(砂絵)の技法を習得する。 素材の良さや特性を生かしながら形体や色彩、時計の構成について考え、表現する。表現方法を創意工夫しながらテーマを追求して表現する力を養う。	10
		8			
		9			
		10			
	7	11	デザイン ・メッセージを広く伝える 「情報伝達の表現を学ぶ」	デザインの機能や効果、表現形式の特性などを学び、ポスターで情報を伝達する力を養う。伝えたい内容にふさわしい表現方法を考え、多くの人に伝わるようにデザインを工夫する。	6
		12			
		13			
2	9	14	絵画 ・テーマを見つめる 「テーマをとらえたアート」	共通のテーマから個々のテーマを掘り下げて表現する。 伝えたい内容や表現したい内容が効果的に伝わるように構図や配色を考え、工夫して制作する。	6
		15			
		16			
	10	17	立体造形 「ミニチュアフェイクフード」	身近な食品をテーマに樹脂粘土の特性を生かしてミニチュアのフェイクフードを制作する。単なる模造ではなく、深い観察を通して偽物を超えた本物のサンプル制作をおこなうよう工夫する。 制作後、身近で使用するためにストラップやマグネットに加工する。	10
		18			
		19			
		20			
	11	21	絵画 ・人物を描く 「ハーフ自画像」	17才の自分を見つめ、写真の半分を元に自画像を描く。 客観的に自分を捉え、かつ自己と対面しながら的確に表現する力を養う。	12
		22			
		23			
12	24				
	25				
	26				
	27				
3	1	28	映像メディア表現 ・PRビデオを作る 「学校紹介」	撮影や編集を工夫して、学校のイメージを伝える映像をグループワークで協力して制作する。学校の魅力やアピールポイントを効果的に伝えることができるよう絵コンテをしっかりと練り、撮影方法も工夫して表現する。	14
		29			
		30			
	2	31			
		32			
		33			
3	34				
	35	まとめ	1年を振り返り、作品管理等のまとめをおこなう。	2	

授業内容及び評価、その他

- ①教科書や図録、資料集などの視聴覚教材やワークシート等を活用し、創造的な表現を目指した作品制作が中心となる造形活動を行います。
- ②授業において調べ学習や教科書のICTコンテンツの利用、アプリの使用など、各自の端末を活用した授業を行います。
- ③コンクール等に出品することを目指した課題も盛り込み、実績作り等の取り組みを行います。
- ④知識・技能(40%)、思考・判断・表現(30%)、主体的に学習に取り組む態度(30%)を基準に評価を行います。

科目名	単位数	学年	学期	必修・選択	対象	担当者
美術表現	2	3	全	選択	全日制普通科 文系選択	大城 あかね 印

使用教科書・副教材	なし				
指導目標	美術の幅広い創造活動を通して造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ねて生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。				
評価の観点	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	
	興味関心を持って意欲的に取り組むことができたか	内容を理解し、自己や他者との対話等で構想を深めているか	表現意図に沿って効果的に伝わるよう創意工夫が見られるか	作品の良さや美しさを感じ取り、自分や他者の考えに興味や関心を持ち批評、発表することができたか	

学期	月	週数	学習内容	学習のねらい	時間
1	4	1	絵画 著名人の顔	描きたい著名人を選び、鉛筆で表現する。鉛筆ならではの表現と味わいに関心を持ち、表現意図に合わせて工夫して表す。対象物をよく観察して、濃淡の表現を追求しながら制作する。	8
		2			
		3			
	5	4	デザイン 「かりゆしウェアデザイン」	かりゆしウェアのデザインを考案する。かりゆしウェアの定義を踏まえ、アイデアを膨らませて沖縄らしさを豊かに表現する。モチーフの配置や配色などを工夫して制作する。	10
		5			
		6			
	6	7	デザイン Tシャツデザイン	自分が着たいオリジナルのTシャツをデザインする。シルクスクリーン印刷の技法を学び、シルクスクリーンならではの表現方法で制作する。	8
		8			
		9			
	7	10	彫刻・デザイン オリジナルシーサー	粘土の特徴を知り、成形の方法を理解する。悪霊を追い払う魔除けの意味を持つシーサーの役割を理解し、オリジナルのシーサーをデザインして制作する。	10
		11			
		12			
	2	9	13	工芸（陶芸） ランプシェード制作	粘土の特性を知り、手びねりの基本技法を体得する。ランプシェードの機能を考え、使用する目的に合うよう成形していく。明かりの漏れ方が織り成す模様を創造しながらデザインして制作する。素焼き、本焼きを通して、窯詰めや釉薬のかけ方などを理解する。
14					
15					
10		16	油絵の表現技法を学び、共通テーマを基に個々の描きたいテーマを掘り下げて構想を練り表現する。3年間の集大成として、色彩豊かに絵画表現ができるよう工夫しながら制作する。	14	
		17			
		18			
11	19	まとめ	1年を振り返り、作品管理等のまとめをおこなう。	2	
	20				
	21				
12	22	まとめ	1年を振り返り、作品管理等のまとめをおこなう。	2	
	23				
	24				
3	1	25	まとめ	1年を振り返り、作品管理等のまとめをおこなう。	2
		26			
		27			
2	2	28	まとめ	1年を振り返り、作品管理等のまとめをおこなう。	2
		29			
		30			
3	3	31	まとめ	1年を振り返り、作品管理等のまとめをおこなう。	2
		32			
		33			

授業内容及び評価、その他

①図録、資料集などの視聴覚教材やワークシート等を活用し、創造的な表現を目指した作品制作が中心となる造形活動を行います。
 ②授業において調べ学習や教科書のICTコンテンツの利用、アプリの使用など、各自の端末を活用した授業を行います。
 ③コンクール等に出品することを目指した課題も盛り込み、実績作り等の取り組みを行います。
 ④知識・技能(40%)、思考・判断・表現(30%)、主体的に学習に取り組む態度(30%)を基準に評価を行います。

令和5年度 音楽I シラバス

検 印	校長	教頭	教頭

担当：高江洲裕之

教科	芸術（音楽I）	単位数	2単位	履修年次	1学年
使用教科書		MOUSAI（教育芸術社）		副教材	高校生のための音楽研究ノート
学習の到達目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成する。				
	1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及びの多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。				
	2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。				
3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。					

評価の観点（表現：歌唱、器楽、創作）高等学校学習指導要領参照

a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
・年間指導計画（歌唱、器楽、創作）指導内容ア～ウについて理解している。【知識】 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な、年間指導計画（歌唱、器楽、創作）指導内容を身に付けている。【技能】	音楽を形づくっている要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって（歌唱、器楽、創作）表現を創意工夫している。	主体的・協働的に（歌唱、器楽、創作）の学習活動に取り組もうとしている。

（鑑賞）

a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
・年間指導計画の指導内容ア～ウについて理解している。【知識】	音楽を形づくっている要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

年間学習計画

学期	時間	題材名	教材名	主な学習活動	評価方法等
1 学期	10	曲想を感じ取って、曲にふさわしい発声で歌おう	コザ高校校歌 翼をください Ave Maria o sole mio Heidenröslein	<ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身につける。 歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら個性豊かに歌唱表現を工夫する。 	観察・聴取 実技テスト
	10	リズムにのってアンサンブルをしよう	Plymouth Rock Clap, Tap with CUPS ソルフェージュ	<ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい音色、奏法、身体の使い方などの留意して演奏し、表現に必要な技能を身につける。 各パートの役割を意識するとともに、全体の響きの特徴を感じ取ったり、理解したりしながら演奏する技能を身につける。 曲の特徴を生かした表現ができるように試行錯誤したり意見を交換しながら演奏する。 	観察・聴取 実技テスト
	10	表現を工夫してリコーダーを演奏しよう	見上げてごらん 夜の星を 天国と地獄 グリーンシアーズ	<ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい音色、奏法、身体の使い方などの留意して演奏し、表現に必要な技能を身につける。 演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら個性豊かに器楽表現を工夫する。 	観察・聴取 実技テスト

2 学 期	5	自分の好きな音楽について調べて発表しよう	自主教材	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味関心のある「音楽」をテーマに調べ学習を行い新聞を作成し、プレゼンテーションをする。 歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 プレゼンテーションに対する評価とその根拠を述べあう。 	観察・聴取 プレゼンテーション
	10	表現を工夫してギターを演奏しよう	日曜日よりの使者 第三の男のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい音色、奏法、身体の使い方などの留意して演奏し、表現に必要な技能を身につける。 演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら個性豊かに器楽表現を工夫する。 	観察・聴取 実技テスト
	10	和楽器に親しみ、表現を工夫して演奏しよう	安波節 ていんさぐぬ花 海の声	<ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい音色、奏法、身体の使い方などの留意して演奏し、表現に必要な技能を身につける。 演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら個性豊かに器楽表現を工夫する。 	観察・聴取 実技テスト
	5	様々な音楽を鑑賞しよう	組曲「動物の謝肉祭」 オペラ「カルメン」 バレエ音楽「火の鳥」	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことや感受したこととの関わりについて考え、音楽のよさや美しさを深く味わって曲を聴く。 場面の状況や雰囲気、登場人物の心情などが音楽によってどのように表現されているかに留意しながら映画を鑑賞し、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解を深める 曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う。 	観察・聴取 実技テスト
3 学 期	10	表現を工夫して合唱やヴォイス・アンサンブルをしよう	花 夏の思い出 おんがく ぼくは ぼく	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が主体的に歌いながら、他者との調和を意識して歌う技能を身につける。 各パートの役割を意識するとともに、全体の響きや表現上の効果に留意しながら歌う。 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら個性豊かに歌唱表現を工夫する。 	観察・聴取 実技テスト

課題・提出物など

表現領域（歌唱・器楽・創作）では、さまざまな実技課題が出されます。個々のレベルに合わせて習熟できるよう時間を設定しています。目標の達成に向けて取り組んでください。

令和5年度 音楽Ⅱシラバス

検 印	校長	教頭	教頭

担当：高江洲裕之

教科	芸術（音楽Ⅱ）	単位数	2単位	履修年次	1学年
使用教科書		MOUSAⅡ（教育芸術社）		副教材	高校生のための音楽研究ノート
学習の到達目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成する。				
	1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。				
	2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。				
3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。					

評価の観点（表現：歌唱、器楽、創作）高等学校学習指導要領参照

a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
・年間指導計画（歌唱、器楽、創作）指導内容ア～ウについて理解している。【知識】 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な、年間指導計画（歌唱、器楽、創作）指導内容を身に付けている。【技能】	音楽を形づくっている要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに（歌唱、器楽、創作）表現を創意工夫している。	主体的・協働的に（歌唱、器楽、創作）の学習活動に取り組もうとしている。

（鑑賞）

a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
・年間指導計画の指導内容ア～ウについて理解している。【知識】	音楽を形づくっている要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている。	主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

年間学習計画

学期	時間	題材名	教材名	主な学習活動	評価方法等
1 学期	10	曲想を感じ取って、曲にふさわしい発声で歌おう	Alleluja ヴォイス・トレーニング 糸	<ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身につける。 歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら個性豊かに歌唱表現を工夫する。 	観察・聴取 実技テスト
	10	リズムによってアンサンブルをしよう	ソルフェージュ 自主教材	<ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい音色、奏法、身体の使い方などの留意して演奏し、表現に必要な技能を身につける。 各パートの役割を意識するとともに、全体の響きの特徴を感じ取ったり、理解したりしながら演奏する技能を身につける。 曲の特徴を生かした表現ができるように試行錯誤したり意見を交換しながら演奏する。 	観察・聴取 実技テスト
	10	ポップスの特徴を理解して歌おう	歩いて帰ろう 糸 ハズキ 「ルールを守って音楽を楽しもう」	<ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身につける。 歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞と、文化的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら個性豊かに歌唱表現を工夫する。 	観察・聴取 実技テスト

2 学 期	5	自分の好きな音楽について調べて発表しよう	自主教材	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味関心のある「音楽」をテーマにしたプレゼンテーションをパワーポイントで行う。 歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 プレゼンテーションに対する評価とその根拠を述べあう。 	観察・聴取 プレゼンテーション
	10	表現を工夫してギターやリコーダーを演奏しよう	天体観測 愛のロマンス 夏は来りぬ 冬 ソナチネ	<ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい音色、奏法、身体の使い方などの留意して演奏し、表現に必要な技能を身につける。 演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら個性豊かに器楽表現を工夫する。 	観察・聴取 実技テスト
	10	和楽器に親しみ、表現を工夫して演奏しよう	三線 涙そうそう 安里屋ユンタ	<ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい音色、奏法、身体の使い方などの留意して演奏し、表現に必要な技能を身につける。 演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら個性豊かに器楽表現を工夫する。 	観察・聴取 実技テスト
	5	様々な音楽を鑑賞しよう	映画音楽：「ハーポッターと賢者の石」 「四季」から 「冬」 「西洋音楽の流れ」	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことや感受したこととの関わりについて考え、音楽のよさや美しさを深く味わって曲を聴く。 場面の状況や雰囲気、登場人物の心情などが音楽によってどのように表現されているかに留意しながら映画を鑑賞し、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解を深める 曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う。 	観察・聴取 実技テスト
3 学 期	10	表現を工夫して合唱やヴォイス・アンサンブルをしよう	夏は来ぬ 上を向いて歩こう 赤とんぼ 夕ぐれ 明日の木	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が主体的に歌いながら、他者との調和を意識して歌う技能を身につける。 各パートの役割を意識するとともに、全体の響きや表現上の効果に留意しながら歌う。 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら個性豊かに歌唱表現を工夫する。 	観察・聴取 実技テスト

課題・提出物など

表現領域（歌唱・器楽・創作）では、さまざまな実技課題が出されます。個々のレベルに合わせて習熟できるよう時間を設定しています。目標の達成に向けて取り組んでください。

令和5年度 音楽表現シラバス

検 印	校長	教頭	教頭

担当：高江洲裕之

教科	芸術（音楽表現）	単位数	2単位	履修年次	3学年
使用教科書		JOY OF MUSIC		副教材	自主教材
学習の到達目標	音楽作品の演奏や鑑賞の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成する。				
	1) 演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身につけるようにする。				
	2) 音楽の様式を踏まえた演奏に関する思考力、判断力、表現力を育成する。				
3) 音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりするとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。					

評価の観点（表現：歌唱、器楽、創作） 高等学校学習指導要領参照

a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
・年間指導計画（歌唱、器楽、創作）指導内容ア～ウについて理解している。【知識】 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な、年間指導計画（歌唱、器楽、創作）指導内容を身に付けている。【技能】	音楽を形づくっている要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに（歌唱、器楽、創作）表現を創意工夫している。	主体的・協働的に（歌唱、器楽、創作）の学習活動に取り組もうとしている。

（鑑賞）

a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
・年間指導計画の指導内容ア～ウについて理解している。【知識】	音楽を形づくっている要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている。	主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

年間学習計画

学期	時間	指導内容	教材名	主な学習活動	評価方法等
1 学期	10	メインになる楽器の選択、決定 演奏曲の選曲、発表に向けた取り組み	各自で選曲した 楽曲	<ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい発声や音色、言葉の発音、奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身につける。 互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出せる表現上の効果を理解する。 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら個性豊かに表現を工夫する。 	観察・聴取 実技テスト
	10	楽曲研究、演奏曲の練習	各自で選曲した 楽曲	<ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい発声や音色、言葉の発音、奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身につける。 互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出せる表現上の効果を理解する。 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら個性豊かに表現を工夫する。 	観察・聴取 実技テスト
	10	ボーカルアンサンブル①	選択曲	<ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身につける。 歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞と、文化的背景との関わり及びその関わりによって生み出せる表現上の効果を理解する。 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら個性豊かに歌唱表現を工夫する。 	観察・聴取 実技テスト
				<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が主体的に歌いながら、他者との調和を意識して歌う技能を身につける。 	

	10	ボーカルアンサンブル②	選択曲	<ul style="list-style-type: none"> 各パートの役割を意識するとともに、全体の響きや表現上の効果に留意しながら歌う。 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら個性豊かに歌唱表現を工夫する。 	観察・聴取 実技テスト
	6	自分の好きな音楽について調べて発表しよう	自主教材	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味関心のある「音楽」をテーマにしたプレゼンテーションをパワーポイントで行う。 歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 プレゼンテーションに対する評価とその根拠を述べあう。 	観察・聴取 プレゼンテーション
	18	楽曲研究、演奏曲の練習	各自で選曲した楽曲	<ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい発声や音色、言葉の発音、奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身につける。 互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解する。 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら個性豊かに表現を工夫する。 	観察・聴取 実技テスト
3 学期	6	これまでの学習のまとめ		<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返りながら一人一人が主体的に音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていくためにどうしたいか考える。 	観察・聴取 実技テスト

課題・提出物など

表現領域（歌唱・器楽・創作）では、さまざまな実技課題が出されます。個々のレベルに合わせて習熟できるよう時間を設定しています。目標の達成に向けて取り組んでください。

令和5年度 書道Ⅱシラバス

教科・科目	書道Ⅱ	学科・学年・クラス	2学年 文系クラス
単位数	2単位	教科書・副教材	書道Ⅱ（書Ⅱ 307）教育出版

1 学習の目標

書道における創造的な活動をとおして、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指している。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深め、書の伝統に基づき、効果的に表現しようとするための技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 授業の目標及び学習方法

(1) 授業の目標

積極的に書くことに挑戦し、楽しみながら学習してほしい。

- ・臨書では、各古典をよく鑑賞しながら、特徴や技法を理解し表現できるように練習する。
- ・創作では、自分の意図に基づいて構想し、古典の特徴も生かしながら、表現を工夫していく。

(2) 学習方法

授業では、教科書に掲載されている古典を中心に臨書を通して学習し、適宜副教材を使用する。

毎時間課題があり、授業の最後に提出する。筆を持ち書くことが主ではあるが、鑑賞の授業やワークシートの記入などでは筆記用具も使用するため、毎時間持参すること。

3 評価の観点

書への関心・意欲・態度（関）	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
書表現の構想と工夫（構）	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。
創造的な書表現の技能（技）	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけ表現している。
鑑賞の関心・意欲・態度と鑑賞の能力（鑑）	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え書のよさや美しさを創造的に味わっている。

4 評価方法

- (1) 提出作品、ワークシート等の記録状況、発表の内容等を中心に、用具・用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度なども含めて総合的に評価します。
- (2) 学期全体の評価は、作品やワークシート等の提出で60%、実技テスト、レポート、課題等で30%、学習活動への参加状況で10%の配分で行います。（詳しくは授業で説明します）
- (3) 提出作品については、臨書においては対象となる古典の特徴を表現できたか、作品制作においては意図した表現に近づくことができたかが評価の基準となります。



2 学習計画

学期	月	時数	学習項目	学習内容	評価方法	
1 学期	4	2	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・篆書とはどんな書体かを知り、歴史的な位置づけを理解します。 泰山刻石の鑑賞と臨書をとおして、篆書（小篆）の特徴を理解し基本的な用筆・運筆、結構を習得します。 召尊の鑑賞と臨書をとおして、金文の基本的な用筆・運筆、結構を習得します。 ・作品に対する効果を考え、姓名印を刻り、押印します。 ・隸書とはどんな書体か知り、歴史的な位置づけを理解します。 乙瑛碑の鑑賞と臨書を通して隸書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、その特徴を理解します。 漢代木簡の鑑賞と臨書をとおして木簡の基本的な用筆・運筆、結構を習得します。 	ワークシート（関・鑑） 中間まとめ（構） まとめ作品（技）	
		4	漢字の書の学習 一 篆書の学習			
		5	10			二 篆刻・刻字の学習
		6	6			三 隸書の学習
	7	4	漢字の書の制作			
2 学期	9	6	四 草書の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・草書の成立と歴史的な位置づけを理解します。基本的な草書の学習により、草書の特徴を把握します。 書譜、十七帖の鑑賞と臨書をとおして草書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、両古典の比較により、それぞれの特徴を把握し草書による表現の多様性理解します。 ・書道Ⅰの学習を基に、行書に対する興味・関心を深め歴史的な位置づけを理解します。さまざまな行書の書風を鑑賞し、行書の表現の多様性を理解します。 集王聖教序・祭姪稿・枯樹賦の臨書をとおしてその表現方法を習得します。 ・書道Ⅰにおける学習を基に楷書の多様な表現に触れ、自から個性を生かす古典を選択して学習を深めます。 ・学習した古典の表現を生かし、題材や形式を選択して創作を行い相互に鑑賞批評を行います。 ・書道Ⅰの学習を基に、仮名の種類、特に変体仮名の種類について学習し、理解を深めます。 	ワークシート（関・鑑） 中間まとめ（構） まとめ作品（技）	
		10	6			五 行書の学習
		11	6			六 楷書の学習
		12	6			漢字の書の創作
		4	漢字の書の制作			
		10	七 仮名の書の学習			
3 学期	1	12	八 漢字仮名交じりの書の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・詩文、形式、用具・用材、構成などを工夫し漢字と仮名の調和方法を考え、自分の感性を表現する最良の方法を模索します。 ・これまでの漢字及び仮名の学習を基に漢字仮名交じりの書の創作を行います。 	ワークシート（関・鑑） まとめ作品（技）	
	2		1 さまざまな表現 2 古名跡に学ぶ表現の工夫 3 創作/さまざまな表現の工夫			
	3		・作品の完成 （鑑賞会を行う）			

【学習のアドバイス】

- 書道の学習においてはまずよく見ることが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。
- 得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成、また作者や時代背景といったさまざまな要素について考え分析する姿勢が大切です。
- 技法の習得は主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく1枚1枚、1字1字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習することが大切です。そのためにワークシートや感想シートは丁寧に書きましょう。
- 作品制作においては「今自分は何を表現したいか」を第一に考え、詩文や用具・用材などを積極的に選択していきましょう。

令和5年度 書道表現シラバス

教科・科目	書道表現	学科・学年・クラス	3学年文系クラス（選択者のみ）
単位数	2単位	教科書・副教材	

1 学習の目標

書道における創造的な活動をとおして、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指している。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深め、書の伝統に基づき、効果的に表現しようとするための技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 授業の目標及び学習方法

- (1) 授業の目標
積極的に書くことに挑戦し、楽しみながら学習してほしい。
 - ・臨書では、各古典をよく鑑賞しながら、特徴や技法を理解し表現できるように練習する。
 - ・創作では、自分の意図に基づいて構想し、古典の特徴も生かしながら、表現を工夫していく。
- (2) 学習方法
授業では、古典を中心に臨書を通して学習し、適宜副教材を使用する。
毎時間課題があり、授業の最後に提出する。筆を持ち書くことが主ではあるが、鑑賞の授業やワークシートの記入などでは筆記用具も使用するため、毎時間持参すること。

3 評価の観点

書への関心・意欲・態度（関）	・書を愛好し、古典の学習をとおして書の文化や伝統についての理解を深めようとしているか。 ・漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書の学習をとおして、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。
書表現の構想と工夫（構）	・感性を高め、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書の学習をとおして個性豊かな能力を伸ばし、創造的な表現を工夫しているか。
創造的な書表現の技能（技）	・漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書において個性豊かな表現をするために、幅広い表現理論と技能を身につけているか。
鑑賞の関心・意欲・態度と鑑賞の能力（鑑）	・古典の学習をとおして書の歴史や文化について理解し、鑑賞の活動の中で書的美を分析的、総合的に捉え、そのよさや美しさを感じているか。

4 評価方法

- (1) 提出作品、「学習記録」の記録状況、「学習のまとめ」の内容を中心に用具・用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度なども含めて総合的に評価します。
- (2) 学期全体の評価は、作品やワークシート等の提出で60%、実技テスト、レポート、課題等で30%、学習活動への参加状況で10%の配分で行います。（詳しくは授業で説明します）

(3) 提出作品については、臨書においては対象となる古典の特徴を表現できたか、作品制作は意図した表現に近づくことができたかが評価の基準となります。



2 学習計画

月	時数	学習内容	学習のねらい	備考
4	14	1 漢字の書の学習 半紙への臨書	各書体についてざっと臨書します。	古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択します。
5	12	画仙紙への臨書 (制作への発展)	各自が選択した古典について範囲を決め半紙に4字または6字の臨書を行います。	書体や詩文は自らの感性に基づくものを選択します。
6			小筆での原寸臨書をとおして全体の雰囲気を把握します。	
7			臨書作品として字数や配置、落款等の位置を含めて構成を工夫します。	
9	6	鑑賞の学習	それまでの臨書の学習を生かし詩文や形式臨書及び創作作品について鑑賞します。	自分の考えを文章で表現する力を養います。
10	15	2 仮名の書の学習	相互の作品を鑑賞し文章にまとめ発表します。	古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択します。
11			各自が選択した仮名古典の臨書を行い表現技法を身につけます。	書体や詩文は自らの感性に基づくものを選択します。
12			それぞれの古典について字典を作成し制作の資料として活用します。	書体や形式は自由に選択します。
	15	3 漢字仮名交じりの書の学習	散らし書きを行います。	
			自由に選んだ詩文を題材に作品の制作を行い、カレンダーに仕立てます。	
1	8	4 表現の広がり 卒業制作への取り組み	各自で挑戦したい課題を設定し、作品制作へ取り組みます。	書体や詩文は自らの感性に基づくものを選択します。
2			・漢字の書・仮名の書 ・漢字仮名交じりの書 ・篆刻、刻字・実用の書など	書体や形式は自由に選択します。
70 (総時数)				

令和5年度 書道表現シラバス

教科・科目	書道表現	学科・学年・クラス	3学年文系クラス（選択者のみ）
単位数	2単位	教科書・副教材	

1 学習の目標

書道における創造的な活動をとおして、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指している。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深め、書の伝統に基づき、効果的に表現しようとするための技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 授業の目標及び学習方法

- (1) 授業の目標
積極的に書くことに挑戦し、楽しみながら学習してほしい。
 - ・臨書では、各古典をよく鑑賞しながら、特徴や技法を理解し表現できるように練習する。
 - ・創作では、自分の意図に基づいて構想し、古典の特徴も生かしながら、表現を工夫していく。
- (2) 学習方法
授業では、古典を中心に臨書を通して学習し、適宜副教材を使用する。
毎時間課題があり、授業の最後に提出する。筆を持ち書くことが主ではあるが、鑑賞の授業やワークシートの記入などでは筆記用具も使用するため、毎時間持参すること。

3 評価の観点

書への関心・意欲・態度（関）	・書を愛好し、古典の学習をとおして書の文化や伝統についての理解を深めようとしているか。 ・漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書の学習をとおして、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。
書表現の構想と工夫（構）	・感性を高め、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書の学習をとおして個性豊かな能力を伸ばし、創造的な表現を工夫しているか。
創造的な書表現の技能（技）	・漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書において個性豊かな表現をするために、幅広い表現理論と技能を身につけているか。
鑑賞の関心・意欲・態度と鑑賞の能力（鑑）	・古典の学習をとおして書の歴史や文化について理解し、鑑賞の活動の中で書的美を分析的、総合的に捉え、そのよさや美しさを感じているか。

4 評価方法

- (1) 提出作品、「学習記録」の記録状況、「学習のまとめ」の内容を中心に用具・用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度なども含めて総合的に評価します。
- (2) 学期全体の評価は、作品やワークシート等の提出で60%、実技テスト、レポート、課題等で30%、学習活動への参加状況で10%の配分で行います。（詳しくは授業で説明します）

(3) 提出作品については、臨書においては対象となる古典の特徴を表現できたか、作品制作は意図した表現に近づくことができたかが評価の基準となります。



2 学習計画

月	時数	学習内容	学習のねらい	備考
4	14	1 漢字の書の学習 半紙への臨書	各書体についてざっと臨書します。	古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択します。
5	12	画仙紙への臨書 (制作への発展)	各自が選択した古典について範囲を決め半紙に4字または6字の臨書を行います。	書体や詩文は自らの感性に基づくものを選択します。
6			小筆での原寸臨書をとおして全体の雰囲気を把握します。	
7			臨書作品として字数や配置、落款等の位置を含めて構成を工夫します。	
9	6	鑑賞の学習	それまでの臨書の学習を生かし詩文や形式臨書及び創作作品について鑑賞します。	自分の考えを文章で表現する力を養います。
10	15	2 仮名の書の学習	相互の作品を鑑賞し文章にまとめ発表します。	古典や題材、構成等は各自の感性に基づくものを選択します
11			各自が選択した仮名古典の臨書を行い表現技法を身につけます。	書体や詩文は自らの感性に基づくものを選択します。
12			それぞれの古典について字典を作成し制作の資料として活用します。	書体や形式は自由に選択します。
	15	3 漢字仮名交じりの書の学習	散らし書きを行います。	
			自由に選んだ詩文を題材に作品の制作を行ない、カレンダーに仕立てます。	
1	8	4 表現の広がり 卒業制作への取り組み	各自で挑戦したい課題を設定し、作品制作へ取り組みます。	書体や詩文は自らの感性に基づくものを選択します。
2			<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書・仮名の書 ・漢字仮名交じりの書 ・篆刻、刻字・実用の書など 	書体や形式は自由に選択します。
70 (総時数)				